

会得した真理を実践する空手道

# 諦を悟る

※諦||真理・まこと

## 第三回 花の命・人の命・人の姿正

森俊博(もり・としひろ)  
プロフィール

昭和25年、宮城県亘理町出身。昭和48年東北学院大学(経済学部)卒業。第4回全空連全日本空手道選手権大会優勝(昭和50年)。第21回JKA全国大会(昭和53年)、第23回大会優勝(昭和55年)。第3回IAKF世界空手道選手権優勝(昭和55年)。師範、総本部理事、国際理事、政策委員。

### 桜と空手道

今年も桜花の季節と共に私たちの空手の大会が始まりました。

私は、真に偉大だった先生・先輩・後輩の人たちのことをいつも考えます。

社団法人日本空手協会の名の下に命をかけて闘った人たちのことを。

心の底に熱き熱情の炎を燃やして闘い、その後には彼らは名誉を示す生き生きとした風を残しました。

私は試合に臨むとき、一年間、私の血と汗の努力を知っている空手衣と黒帯を枕元に畳んで置いて眠り、そして空手衣と黒帯を持って大会会場に向かう時、自分の心に感



第53回全国大会で主審を務める筆者。

じることを大切に、心に刻んでいました。選手を引退し、審判員となつてからは選手の時に、感じたことを大切にして審判に臨んでいます。

今年も桜は眼に見えない所で開花の準備をして、美しく咲き誇りました。

染色の重要無形文化財保持者の志村ふくみさんが、「二色一生」という本の中に桜のことを書いています。

折々粉雪の舞う三月の小倉山の麓ふもとで桜の枝を切っている老人と出会い、枝をいただいて帰り、早速煮出して染めてみますと、ほんのりした樺桜のような桜色が染まりました。その後、たまたま九月の台風の時、滋賀県の方で桜の大木を切るからと聞き、喜び勇んで出かけ、いただいてきて煮出してみると、その時の桜は三月の桜と違って桜色に染まりませんでした。

その時、はじめて知ったのです。桜が花を咲かすために樹全体に宿している命のことを。

桜は一年の中で樹全体の中にその時期の来るのを待ちながらじっと蓄えていた花の命を、惜しげもなく、自然に発散して開花する。

その桜の命、桜の精が桜の樹木の中から、百花繚乱の華麗な姿に変幻する。

その桜の花こそ、桜の精そのものの真実の姿です。

志村さんの友人が桜の花弁ばかり集めて染

めてみたそうですが、それは灰色がかつた薄緑だったそうです。命も花の精も既に虚空に消え去って、もぬけの空になりはてていたのです。

植物には周期があつて、機を逸(いつ)すれば色は出ないのです。花と共に精気は飛び去つてしまい、あざやかな真紅や紫、黄金色の花も、花そのものでは染まりませんと志村さんは言っています。

空手の大会に出場する選手も桜の花や他の植物と同じ様に、大会で勝つために一年を通して勝つための工夫をし、血と汗の稽古を積み重ねて出場します。

一年間の血と汗の努力を蓄え、その蓄えた選手の命の花を咲かそうと全身全霊で試合を行い、人間の気迫のある華麗な花を咲かせます。選手にも華麗に咲く時期があります。その機を逸することのない様に審判員はその選手の気迫と技を観て、緊張感を持って一年一度の試合を公正に真剣に審判することが審判員として最も大切なことです。

それが審判として選手に対する人としての姿正ではないでしょうか。

今年の(社)日本空手協会の第53回内閣総理大臣杯争奪全日本空手道選手権大会は、「極め」の一本勝負試合、一本勝負の醍醐味と力強い技の美しさに溢れ、感動したすばらしい大会でした。選手の皆様と審判員の皆様の健闘を心から讃えたいと思います。



# TOKAIDO

(ショップ移転しました) 東京都文京区本郷1-4-11 岡野ビル1F(都営三田線「水道橋駅」徒歩1分 JR総武 / 中央線「水道橋駅」徒歩3分)  
Tel.03-5840-8030 平日▶AM11:00-PM8:00 / 土日祝▶AM10:00-PM7:00

株式会社東海堂 〒113-0033 東京都文京区本郷1-15-2 第一三沢ビル3F ※商品・カタログのお問合せは▶TEL.03-5844-3451 / FAX.03-5844-3452